

病虫害発生予察情報の提供

- 病虫害発生予察とは、農作物の病気や害虫の防除を適切に行うために、病虫害の発生状況を調査し、気象条件や農作物の生育状況などを総合的に考慮して今後の発生を予測するものです。
- これまで、主要農作物を対象に病虫害の発生予測を行い、「発生予察情報」の迅速な提供に取り組んできました。

1 病虫害発生予察を取り巻く最近の動き

令和4（2022）年に植物防疫法が改正され、有害動植物の侵入やまん延リスクの高まりにより、発生の予防を含めた防除の普及等を図っていくことが急務となっています。これに伴い、本県で病虫害発生予察の対象としている指定有害動植物は、従来の79種から103種に増加しました。

さらに、本県では令和6（2024）年4月に「栃木県病虫害総合防除計画」を策定し、総合防除の普及促進に取り組んでいます。本計画では、発生予察情報に基づき、防除の要否や時期を適切に判断することとしています。防除を実施する際には、「発生予察情報」を活用した適期・適切な対応が重要となります。なお、「発生予察情報」は、当センターのホームページに随時掲載しています（図1）。



図1 農業総合研究センターHP

2 過去10年間の多発生、新発生など特異的な病虫害発生への対応

農業総合研究センターが発表する「発生予察情報」には、以下の4種類があります。

- ・「病虫害発生予察予報」（以下、「予報」という。）は毎月定期的に発表します。
- ・「病虫害発生予察注意報」（以下、「注意報」という。）及び「病虫害発生予察警報」は病虫害の多発が予測される場合に発表します。
- ・「病虫害発生予察特殊報」（以下、「特殊報」という。）は、県内で初めて確認した病虫害について発表します。

(1) 予報の発表状況

水稲、麦類、大豆、いちご、トマト、きゅうり、なし、ぶどう、きく等の作物に発生する病虫害について、毎月その発生量を予測し、防除対策を取りまとめて発表しています。

(2) 注意報の発表状況

過去10年間で注意報を9件発表しました（表1）。作物や病虫害の種類別では、イネ縞葉枯病が4件と最も多く、次いで果樹のカメムシ類が3件、トマト灰色かび病と麦類赤かび病がそれぞれ1件でした。

水稲の縞葉枯病は、害虫であるヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、葉の枯死や穂の生育異常を引き起こし、発生が多い場合には大幅な減収につながります。特に「コシヒカリ」などの抵抗性のない品種での発生が問題となっています。

表1 過去10年間に発表した注意報

年度	年度	発表年月日	作物名	病虫害名
平成26年度	第1号	H26. 5. 29	水稲	縞葉枯病
平成26年度	第2号	H26. 6. 6	果樹類	果樹カメムシ類
平成27年度	第1号	H27. 6. 3	水稲	縞葉枯病
平成27年度	第2号	H28. 1. 28	トマト	灰色かび病
平成28年度	第1号	H28. 6. 1	水稲	縞葉枯病
平成29年度	第1号	H29. 5. 31	水稲	縞葉枯病
令和2年度	第1号	R2. 6. 18	果樹類	果樹カメムシ類
令和6年度	第1号	R6. 5. 13	果樹類	果樹カメムシ類
令和6年度	第2号	R6. 5. 16	小麦、六条大麦、二条大麦	赤かび病

果樹のカメムシ類は、なし、りんご、もも等の果実を加害し、収量や品質の低下を招きます。近年の暖冬傾向がこれら害虫の発生増加に影響している可能性があります。



写真1 チャバネアオカメムシ成虫（左）とトラップでの誘殺状況（右）（令和6年度注意報第1号）

(3) 特殊報の発表状況

過去10年間で特殊報を21件発表しました（表2）。作物別に見ると、いちご、トマト及びねぎがそれぞれ2件と多く、その他にもうめ等の果樹類、にら等の野菜類、トルコギキョウ等の花き類など、多くの品目に及んでいます。

病害に関する情報は7件で、そのうち菌類による病害が4件、ウイルス性病害が3件でした。一方、害虫に関する情報は15件（うちダニ類が2件）でした。

これらの病害虫の中には、平成29(2017)年に発生を確認したクビアカツヤカミキリのように、各地で発生が拡大し、被害が問題になっているものもあります。また、令和6(2024)年には、トマトキバガが確認されており、トマトやなす等のナス科作物への被害が懸念されるため、今後の発生拡大に注意が必要です。

表2 過去10年間に発表した特殊報

年度	作物名（病害虫名）
平成26年度	トマト（葉かび病レース 2.9、4.9、2.5.9、4.5.9）、ピーマンえそ輪点病・トマト茎えそ病（仮称）（GSNV）、ねぎ（葉枯病（黄色斑紋症状））
平成27年度	いちご（ミカンコナカイガラムシ）
平成28年度	なし（ニホンナシハモグリダニ（仮称））、メボウキ（バジル）（べと病）
平成29年度	りんどう（リンドウえそ斑紋病（INSV））、もも・すもも（クビアカツヤカミキリ）、ゆり（IYSV）、えごま（モンオビヒメヨトウ）
平成30年度	ぶどう（ブドウミタマバエ）、トマト（ミツユピナミハダニ）、いちご（オウトウショウジョウバエ類）、トルコギキョウ（斑点病）
令和元年度	キウイフルーツ（キクビスカシバ）、ネギ（ネギハモグリバエ別系統）
令和2年度	飼料用とうもろこし（ツマジロクサヨトウ）
令和3年度	飼料用とうもろこし（ツマジロクサヨトウ）、なす（トビイロシワアリ）、うめ・もも（ヨコバイ科の一種）、大豆（ミナミアオカメムシ）
令和5年度	にら（フシダニ科の一種）
令和6年度	—（フェロモントラップへの誘殺）（トマトキバガ）



写真2 クビアカツヤカミキリの成虫（左）と被害樹の株元に排出されたフラス（幼虫の糞と木くず）（右）（平成29年度特殊報第2号）

3 本県独自の情報の発表

本県では、予報、注意報、警報、特殊報に加え、特産品であるいちごの病害虫防除に関する「いちご病害虫情報」を平成22(2010)年度から毎月発表しています。また、防除の参考となる情報を随時提供する「植物防疫ニュース」を年間10回～15回程度発表しています。

4 今後の取組

近年、イネカメムシのように発生が増加している病害虫や、いちごをはじめとする県産農産物の安定生産を確保するため、病害虫の発生状況や発生予察情報を提供し、適切な防除による被害軽減に取り組んでいきます。さらに、地球温暖化や気候変動に伴う病害虫の発生増加や、新たに発生した病害虫に的確に対応するため、これらに関する発生予察情報を迅速に提供していきます。併せて、サツマイモ基腐病のような本県では未発生ながら侵入が懸念される病害虫についても、引き続き警戒を強化していきます。

（環境技術指導部 防除課）